



文部科学省 国立大学改革強化促進補助金

千葉大学大学院看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター

平成 30 年度 事業報告書

平成 31 (2019) 年 3 月

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

目次

I. ごあいさつ	3
II. 専門職連携教育研究センターについて	4
III. センターの取り組みと成果（平成 30 年度）	12
1. 教育	12
1) 亥鼻 IPE の発展・進化	12
2) 新たな IPE プログラムの開発	13
3) FD の充実	14
2. 実践・社会貢献	15
1) IPE 研究拠点からの発信	15
2) IPW の促進	16
3) 政策提言	19
3. 研究	19
1) IPE 研究の進化	19
4. 組織運営	20
1) 予算と人材の確保	20
2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営	20
3) IPERC の将来構想	21
IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評	22
1. 平成 30 年度外部評価委員会の開催	22
2. 外部評価委員による講評	23
3. 外部評価委員の講評のまとめ	24
1) 教育について	24
2) 実践・社会貢献について	24
3) 研究について	24
4) 組織運営について	24
V. 資料	25
(資料 1) 亥鼻 IPE 数値実績	25
(資料 2) 学習のまとめ (別冊)	26
(資料 3) 平成 30 年度 試行事業報告 クリニカル IPE (別冊)	26
(資料 4) 地域貢献事業実績	27
(資料 5) 研究業績	32

I. ごあいさつ

2015年1月1日に開設したIPERCは5年目を迎え、いよいよ完成年度に向けて仕上げの時期となりました。平成が終わり、新しい元号となる次年度にむけ、IPERC事業の継続性を固め、次の企画を検討しつつあります。

教育では、亥鼻IPEにいくつかの変化がありました。まず看護学部の新カリキュラム導入に伴い、これまで3学部の同学年で行ってきたステップ3を、今年度より看護学部2年生、医学部薬学部は3年生で受講することになりました。これに伴い、今年度のステップ3は看護学部2年生と3年生が同時期に受講するという変則的なものとなりました。次年度はステップ4についておなじように、看護学部の受講年次を3年生に変更します。またステップ2では、反転学習を導入し地域包括ケアに関する基本的な知識獲得のための仕掛けを強化しました。クリニカルIPEについても順調に実施しています。次年度には、クリニカルIPEの必修化に向けたワークキンググループを立ち上げる予定です。

海外との教育交流について特筆すべきことは2点あります。一つ目は、香港大学から4人の学生をステップ3に受け入れ、すべてのプログラムに参加していただきました。英語によるグループワークや質疑応答も活発に行いました。また2月から3月にかけて、レスター大学IPEに医学部と看護学部から3名の学生が参加しました。レスター大学IPEに参加したみなさんは、グループワークへの参加、英語によるプレゼンテーション、住民との対話など、学生同士助け合いながらチームとして成長していく状況がよくわかりました。海外とのIPE交換留学にむけたプログラム開発がスタートしたとあってよいと思います。

社会貢献では、千葉県等自治体からの委託を受けたIPW研修事業を実施しました。そのほかに新たな試みとして、IPERCは昨年度の実績を踏まえIPE導入ガイドラインを開発し、6種類のIPE、IPWに関する研修を実施しました。亥鼻IPEで蓄積した知見とともに現任者もしくは教育者へのIP研修で得られた知見は、今後の「専門職連携教育学」の構築に大きな役割を果たすと確信します。また千葉大学大病院の全職種対象新人研修において、IPE企画を実施しました。千葉市の地域包括ケアシステムの推進に協力し、住民との協働も定着しつつあります。加えて今年度は地域の防災IPEに積極的に取り組み、避難所運営や病院の災害対策本部演習などについて協力およびコンサルテーションを行いました。

研究では、医学部、薬学部、看護学部の若手教員とのコラボレーションによる研究活動がさらに活発化しています。亥鼻キャンパス全体に、「自職種も多職種も好きになる」「自職種と他職種と一緒に患者中心の実践と教育と研究を行っていこう」という機運が、学会発表や論文投稿という形になりつつあります。

運営面では、将来構想委員会を3回開催し、次の亥鼻IPE,そして次のIPERCのあるべき姿を描きました。いくつかの試みを実施しつつ、その評価から、課題を抽出し、「専門職連携学」の確立と普及という使命をこれからも果たす所存です。

平成30年度は、発芽したIPEの芽がどんどん伸びて葉っぱを茂らせた1年でした。次年度どのような花が咲くのか楽しみです。

最後に、平成30年度のIPERC事業および亥鼻IPEにご協力をいただいたすべての皆様に感謝いたします。

平成31年3月31日
センター長 酒井 郁子

II. 専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 年 1 月からセンター長及び特任教員で原案を作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 年 2 月 23 日、平成 27 年度第 1 回運営委員会で決定した。

1. 理念、ビジョン、ミッション

1) 理念（社会における存在意義、信条）

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

2) ビジョン（目指すべき姿、未来像）

「IPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部（医学・薬学・看護学）の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

3) ミッション（果たすべき使命、社会的役割）

（1）教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

（2）実践（社会貢献）

IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）を担う人材育成（現任者対象の IPE）について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括した IPW を促進する。また、IPE 研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPE や IPW を推進する政策提言を行う。

（3）研究

IPE に関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化を行う。また、IPW に関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効な IPW 人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

（4）組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）による運営体制を構築する。

2. 組織

当センターは、看護学研究科の研究・教育施設として位置づけられている。センター教員は、特任教員と3学部から兼務教員である。下記に組織図および各会の名簿を示した。

センター教員は「教育実践研究部会」を年2回開催し、研究、教育・実践、および研修活動として、下記の活動を行っている。

研究として

- ・ IPE の評価研究、理論化、データ蓄積
- ・ IPW の理論化、実証研究、橋渡し研究
- ・ IPE (学部・大学院) 及び IPW プログラムの開発・普及
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

教育・実践として

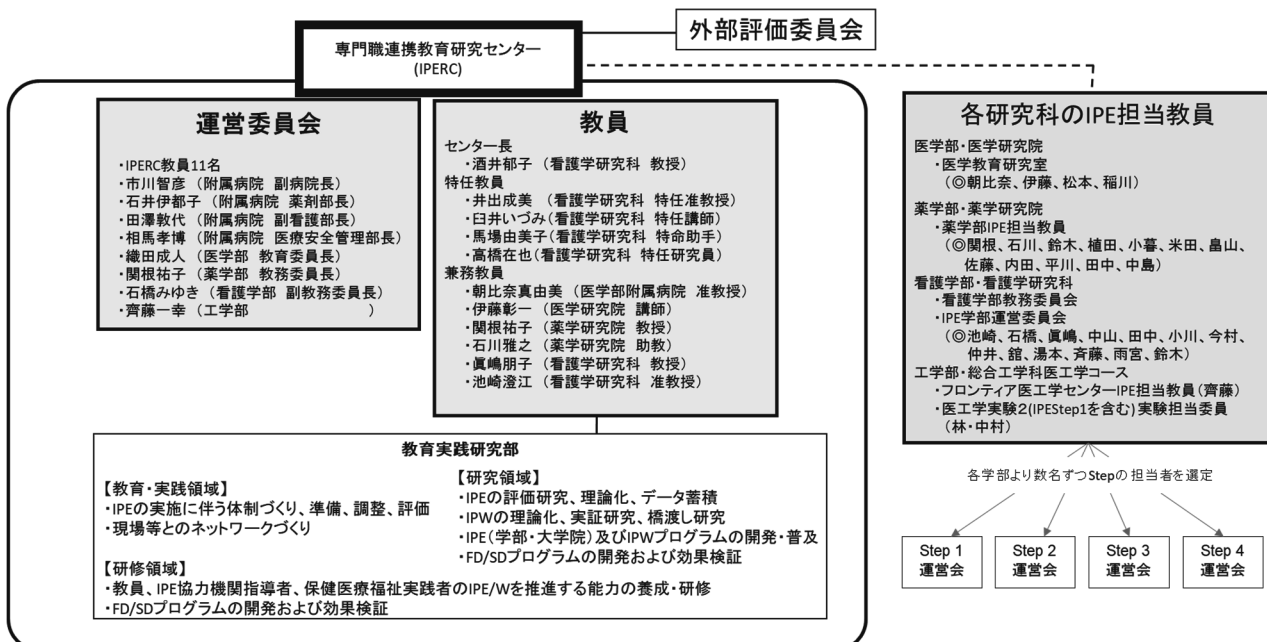
- ・ 3学部等のメンバーによる IPE の実施に伴う準備・調整・体制づくり・評価
- ・ 現場等とのネットワークづくり

研修として

- ・ 教員、IPE 協力機関指導者、保健医療福祉実践者の IPE/W を促進する能力の養成・研修
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

また、「教育実践研究部会」は、センター教員が部会員であり、3学部と連携し亥鼻 IPE の科目運営を行っている。センターの運営については、センター長、センター教員の他、3学部の教務委員長および附属病院に委員を依頼し、定期開催している。また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言を得ている。センターの事務所管は、看護学部事務センター事業支援係が担当することとなった。亥鼻 IPE は、看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員と連携して行っている。

IPERCと亥鼻IPEの組織図 2018.4～



平成 30 年度センター職員名簿

センター長

- ・酒井 郁子 (看護学研究科 教授)

特任教員

- ・井出 成美 (看護学研究科 特任准教授)
- ・臼井いづみ (看護学研究科 特任講師)
- ・高橋 在也 (看護学研究科 特任講師)
- ・馬場由美子 (看護学研究科 特命助手)

兼務教員

- ・関根 祐子 (薬学研究院 教授)
- ・眞嶋 朋子 (看護学研究科 教授)
- ・朝比奈真由美 (医学部附属病院 准教授)
- ・池崎 澄江 (看護学研究科 准教授)
- ・伊藤 彰一 (医学研究院 講師)
- ・石川 雅之 (薬学研究院 助教)

事務補佐

- ・富永嘉子
- ・長谷川容佳
- ・高野佳奈 (6月末日まで)

平成 30 年度センター運営委員名簿

- ・市川 智彦 (附属病院 副病院長)
- ・石井伊都子 (附属病院 薬剤部長)
- ・田澤 敦代 (附属病院 副看護部長)
- ・相馬 孝博 (附属病院 医療安全管理部長)
- ・清水 栄司 (医学部 教務委員長)
- ・小椋 康光 (薬学部 教務委員長)
- ・石橋 みゆき (看護学部 副教務委員長)
- ・齊藤 一幸 (フロンティア医工学センター 准教授)
- ・上記 センター特任教員・兼務教員

平成 30 年度センター外部評価委員名簿

- ・川島 啓二 (京都産業大学共通教育推進機構 教授)
- ・渡邊 秀臣 (群馬大学大学院保健学研究科 教授)
- ・新井 利民 (埼玉県立社会福祉こども学科 准教授)
- ・福田 浩子 (千葉県健康福祉部健康づくり支援課)
- ・井手 正明 (千葉大学医学部 SP (模擬患者) 会)

3. 専門職連携教育研究センター規程

センターの規定は、平成 26 年 10 月に千葉大学理事会で決定した。

(趣旨)

第 1 条 この規程は、千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、専門職連携教育及び連携実践を発展・進化させるための基盤体制を組織的に位置付け、我が国及びアジア圏の専門職連携教育実践の研究、教育の推進拠点として機能することを目的とする。

(組織)

第 3 条 センターに、次の研究部を置く。

一 教育実践研究部

二 その他、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）が必要と認めた研究部

(職員)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

一 センター長

二 センター兼務の教授、准教授、講師及び助教

三 その他の職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、看護学研究科長が指名する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は、センターの業務を総括する。

(運営委員会)

第 6 条 センターに、センターの円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。

第 7 条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 センターの運営に関する事項

二 その他運営委員会が必要と認めた事項

第 8 条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 センター長

二 医学部、薬学部及び看護学部の教務担当委員長

三 その他センター長が必要と認めた者

第 9 条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

第 10 条 運営委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところに

よる。

第11条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(外部評価委員会)

第12条 センターにおいて外部評価を実施するため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 センターの事務は、看護学部事務部において処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、看護学研究科教授会の議を経て別に定める。

附則

1 この規程は、平成27年1月1日から施行する。

2 最初に指名されるセンター長の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

4. 平成30年度事業計画

●長期目標(平成27年—平成31年 2015–2019)

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

評価研究を通して、効果的な「亥鼻 IPE」(Step1～Step5)の教育プログラムを確立する。また、適切に PDCA サイクルを運用し、教育プログラムを管理・運営・実施できる体制を構築する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

国内の他大学や海外との IPE に関わる交流を図り、多様な IPE プログラムを開発し蓄積する。

(3) FD の充実

「亥鼻 IPE」を担うファシリテーター(以下、FT)養成の研修プログラムを開発して FT 研修(FD)を行い、亥鼻 IPE の人材バンクを組織化する。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

IPE を担う人材育成や国内外の IPE 実践者へのコンサルテーションを広く展開するよう、開発・検証した IPE プログラムや研修プログラムを発信し、実施できるシステムを構築する。

(2) IPW の促進

大学病院や地域における IPW コーディネーターの人材育成(現任者対象の IPE)に関する研修プログラムを確立し、研修を実施するための制度化を行う。あわせて、IPW を促進するための組織改善に関する管理者等の研修プログラムの開発と研修の実施及び IPW のコンサルテーション等を行うためのシステムも構築する。

(3) 政策提言

IPE/IPW の能力を有した人材が社会的に認知され、意欲的に活動するための認証制度について政策提言をする。また、医療系学士課程教育に対して、専門職・多職種連携教育関係科目の開設と制度化を促す活動を多面的に検討し、展開する。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

各研究プロジェクト・チームの成果を集積し、IPE/IPW の理論化・体系化に取り組み、専門職連携学の学術的枠組みを構築する。また、多様な分野に応用できる汎用性のある IPE/IPW の研究方法論を開発、提唱する。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

IPERC は亥鼻高機能化事業として予算化されているので、新たな事業費や研究助成金の確保を追求し、発展的な事業展開ができるようにする。また、センターのリソースパーソンの確保と活用ができるよう組織拡大を図る。

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

IPERC の運営体制を、PDCA サイクルをもとに検証しながら運営を行う。

(3) IPERC の将来構想

IPE/IPW の研究拠点として「大学院専門職連携学研究科（仮）」の設置に向けて検討する。

●後期中期目標(平成 30 年度－31 年度)

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

①3 学部のカリキュラム改正等に対応した亥鼻 IPE の改定を行い、安定的に実施し、教材を順次更新、開発する。

②医学 5 年生・薬学 5 年生、看護学部 4 年生に臨床 IPE を実施する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

①海外との交流による多様な IPE プログラムを開発する。

②千葉県内の大学間連携による IPE プログラムを開発する。

③大学院における IPE プログラムを開発する。

④厚労省及び文科省、他大学との連携による IPE の開発を行う。

(3) FD の充実

①「亥鼻 IPE」の FT 養成プログラムに関する実証的な検証を行い、プログラムの改善を図る。

②亥鼻 FD プロジェクトの拡大と安定的運営を図る。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

①健康関連専門職養成所における IPE カリキュラムの開発と運営に関して、IPERC が蓄積したカリキュラムマネジメントおよび FD の知見を広く周知する。

②海外の健康関連専門職養成を行っている大学と連携し、国際的に互換性の高い IPE プログラムの開発およびカリキュラムマネジメントに関するコンサルテーションを実施する。

(2) IPW の促進

①大学病院の IPW 改善に貢献する。

②千葉県（千葉市）及び全国の地域連携事業に協力し、医療と介護の連携および地域包括ケアシステム構築に貢献する。

(3) 政策提言

厚労省、文科省と連携し、指定規則の改定およびコアカリキュラムへの IPE 必修化に向けた提言を行う。

3) 研究

IPE 及び IPW の理論化および IPE 成果検証研究を実施し公表する。

4) 組織運営

(1) 事業の安定的な運営及び発展を目指した予算確保

①新たな外部資金の確保

②亥鼻キャンパス内での予算枠組みの再構築を行い事業運営の安定化を図る。

(2) PDCA サイクルに基づいた運営

①年間事業計画の策定と実施、評価

②各種運営マニュアルの修正

(3) IPERC 将来構想の具現化

①IPERC を含む総合教育棟の概算要求

②IPE に関する大学院の設置に向けた検討

●2018 年(平成 30 年)度 年間目標

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の安定的発展

①看護学部のカリキュラム改正に伴い、ステップ 3 の開講時期の変更がなされるため、2 年生(新カリ) と 3 年生(旧カリ) の 2 学年にステップ 3 を効果的効率的に実施する。

②2019 年度新カリ進行の準備を行い、ステップ 4 について 3 年生(新カリ)、4 年生(旧カリ) の 2 学年にステップ 4 が効果的効率的に実施できるようにする。

③Moodle が医学部から全学に移行し上記①②を西千葉 Moodle で円滑に対応できるようにする。また医学部 Moodle に残された学生データの移行を行う。

④授業評価アンケートや教員アンケートをもとに、これまでの教育プログラムの課題を集約し、次年度の「亥鼻 IPE」プログラムを検討する。

⑤医学部 5 年生、薬学 5 年生、看護学部 4 年生(旧カリ) への CIPE の試行を、大学病院で実施する。

⑥2019 年度看護学部 4 年生(新カリ) への CIPE の実施形態が、より必修化に近づくように参加者拡大の方策を構築する(看護学部は 2021 年度にカリキュラム改訂を計画しており、それまでに必修化の道筋を明確にする)。

(2) 海外との交流による多様な IPE プログラムの開発

①レスター大学への学生短期留学および亥鼻 IPE との単位互換を計画する。

②トロント大学への IPE 学生短期留学の可能性および単位互換の可能性を探索する。

(3) 千葉県内の大学間連携による IPE プログラムの開発

①新たな千葉県内大学および各種専門学校での IPE 開発に協力する。

(4) 大学院における IPE プログラムの開発

①IPE を取り入れた災害看護学の大学院教育の効果を評価し、社会実装の可能性を探索する。

②看護学研究科大学院カリキュラム改正に向け、大学院専門職実践論の開講に向け準備する。他大学他研究科への科目等履修を視野に入れる。

(5) 厚労省及び文科省との連携による標準 IPE プログラムの開発

①2017 年度の全国調査に基づき看護師等養成所における IPE プログラム開発を実施する。

②全国の健康関連専門職共通科目としての IPE カリキュラムの構築を厚労省、文科省、他大学 IPE リーディング大学と連携して実施する。

(6) FDの充実

- ①Step 1～4、および CIPE の FT 研修 (FD) を実施する。そのための教材開発を行う。
- ②亥鼻 FD プロジェクトを亥鼻キャンパスに組織的に位置づける。そのための合意形成を行う。

2) 実践・社会貢献

(1) 健康関連専門職養成所における IPE カリキュラムマネジメントの研修

- ①IPE カリキュラムマネジメント及び教育方法に関する研修会を実施する。
- ②教材の集約と整理、開発のための仕組みを開発する。そのための外部資金の獲得を行う。

(2) 海外の健康関連専門職系大学との連携により国際的に互換性の高い IPE プログラムの開発及びカリキュラムマネジメントのコンサルテーション

- ①インドネシアを中心として、IPE カリキュラム開発のコンサルテーションを実施する。

(3) 千葉大学病院の IPW への貢献

- ①大学病院全職種新人研修を病院、医学部、薬学部と協働して実施する。
- ②大学病院の現任教育 IPE プログラム開発を大学病院と協働して実施する。

(4) 千葉県内及び全国の地域連携事業への協力を通して地域包括ケアシステム構築への貢献

- ①千葉県及び全国の健康関連専門職を対象とした現任教育 IPE プログラムを提供する。
- ②IPW リーダー養成事業を実施する。
- ③組織マネジメントにおける IPW の推進に関する研修事業を実施する。
- ④地域包括ケアシステムにおける連携協働の仕組みづくりへのコンサルテーションを実施する。

(5) 厚労省、文科省との連携による IPE 必修化への提言

- ①厚労省看護基礎教育検討会(仮) 構成員にセンター長として入り、平成 32 年の改正省令施行、平成 34 年の改正省令を適用した教育の開始に向けた提言を行う。
- ②健康関連専門職基礎教育課程における共通科目の設定について、厚労省、文科省に意見を提出する。

3) 研究

- ①医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポート
- ②IPE 成果研究の発信

4) 組織運営

(1) 予算確保

- ①新たな研修事業を立ち上げる
- ②亥鼻キャンパス内での予算枠組みの再構築を行い事業運営の安定化を図る

(2) 運営

- ①年間事業計画の策定と実施、評価
- ②各種運営マニュアルの修正

(3) IPERC 将来構想の具現化

- ①IPERC を含む総合教育棟の概算要求
- ②IPE に関する大学院の設置に向けた検討

Ⅲ. センターの取り組みと成果（平成 30 年度）

「1. 教育」「2. 実践」「3. 研究」「4. 運営」の4つの柱に沿って長期目標・中期目標を見出しとして、平成 30 年度の取り組みと成果を述べる。

1. 教育

1) 亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の Step1・2・3・4 は、3 学部で運営責任学部を分担し 3 学部の教員とセンター教員が協力して運営を行っている。Step1 は看護学部、Step2 は薬学部、Step3 は毎年持ち回りで平成 30 年度は医学部、Step4 は医学部である。以下、平成 31 年度の短期目標ごとにその実績を述べる。Step1・2・3・4 の科目内容及び実績の詳細は別冊として「学習のまとめ」に記載する。また学生数等の実績については（資料 1）に掲載した。

（1）亥鼻 IPE の安定的発展

- ①看護学部のカリキュラム改正に伴い、ステップ 3 の開講時期の変更がなされるため、2 年生（新カリ）と 3 年生（旧カリ）の 2 学年にステップ 3 を効果的効率的に実施する。
→医学部生 117 名、看護学部生 162 名（2 年生 78 名、3 年生 79 名、香港大学学生 4 名）、薬学部生 60 名（科目履修生 1 名、城西国際大学学生 6 名）合計 339 名に対し、いのはな記念講堂および医学部、看護学部、薬学部の 7 教室を使用して実施した。学生は 6～7 名で 1 グループを作り、ひと教室 7～8 グループで運営した。グループワークシートの配布をやめ、Moodle からダウンロードして使用し、作成後は Moodle に提出するようにすることで、作業の効率化を図った。看護学部の 2 年生と 3 年生が同じグループに混じらないよう、学年差の影響が出ないように配慮した。
- ②2019 年度新カリ進行の準備を行い、ステップ 4 について 3 年生（新カリ）、4 年生（旧カリ）の 2 学年にステップ 4 が効果的効率的に実施できるようにする。
→本年度のステップ 4 実施時に来年度人数が増えた状況を想定して、必要物品や部屋の使用方法を検討し、附属病院の講堂やセミナー室の予約を行った。物品レンタルのための予算計上を行う予定である。
- ③Moodle が医学部から全学に移行し上記①②を西千葉 Moodle で円滑に対応できるようにする。また医学部 Moodle に残された学生データの移行を行う。
→千葉大学 Moodle を活用し、ステップ 2 では事前学習コンテンツを作成し、実施した。ステップ 3 ではグループワークシートの配布をやめ、Moodle での電子資料の配布、グループワークの成果物の提出を実施した。医学部 Moodle からのデータ移行については、一部学生データの移行が終わっていないものがあるが、順次実施している。
- ④授業評価アンケートや教員アンケートをもとに、これまでの教育プログラムの課題を集約し、次年度の「亥鼻 IPE」プログラムを検討する。
→ステップ 2 では、学習目標と学習内容が一部一致していないという課題が見つかったため、Moodle と反転授業の手法を使用して、事前学習を十分に実施することで、レポートの内容や実習での学びなどに学習成果が表れた。

(2) クリニカル IPE (試行事業) の実施

①医学部 5 年生、薬学 5 年生、看護学部 4 年生(旧カリ) への CIPE の試行を、大学病院で実施する。

→7 月に附属病院 9 診療科 9 病棟にて、臨床参加型 IPE (CIPE) を実施した。11 グループ 38 名 (医学部 5 年生 11 名、看護学部 4 年生 17 名、薬学部 5 年生 8 名、薬学部 8 名の内 2 名は他大学) が参加した。

9 診療科 9 病棟で、医師 9 名、看護師 13 名、薬剤師 12 名が指導に協力した。

実習準備として、実習指導を担当する専門職 (医師、看護師、薬剤師) との事前打合せを各診療科を含め病棟毎に行った。

附属病院スタッフへの周知目的で、実習初日に開催された附属病院「ALL-Byoing」で、兼務教員朝比奈真由美が「Clinical IPE- 臨床実習における IPE-」と題して説明会を行った。

来年度も試行事業として実施する予定である。(資料 4: 別冊 クリニカル IPE 試行事業報告書)

②2019 年度看護学部 4 年生(新カリ) への CIPE の実施形態が、より必修化に近づくように参加者拡大の方策を構築する(看護学部は 2021 年度にカリキュラム改訂を計画しており、それまでに必修化の道筋を明確にする)。

→医学部と薬学部の学生は、すでにクリニカルクラークシップ実習及び実務実習の中で、CIPE を実施している。2021 年度からの看護学部の新カリキュラム開始に合わせて、3 学部の CIPE 必修化への道筋をワーキンググループを発足させ検討する予定である。

2) 新たな IPE プログラムの開発

(1) 海外との交流による多様な IPE プログラムの開発

①レスター大学への学生短期留学および玄鼻 IPE との単位互換を計画する。

→医学部は学部間協定に基づき、臨床実習としてレスター大学から 2 名の学生を受け入れており、千葉大学からも 1 名が留学した。本年度は、看護学部の学生 2 名が Global Health Nursing II という科目の一環で 2019. 2. 23~3. 10 まで短期留学が実現できた。医学部、看護学部の学生ともレスター大学の IPE プログラムにも参加することができた。今後の発展に向けた第一歩とするべく、酒井センター長と兼務教員朝比奈准教授も学生と共に渡英して、現地関係者と懇談してきている。

②トロント大学への IPE 学生短期留学の可能性および単位互換の可能性を探索する。

→トロント大学との交流は今後他学部と協働して推進する予定である。本年度は、ステップ 3 に香港大学から看護学部生 4 名を受け入れた。来年度以降、看護学部生の交換留学に向けて検討中である。香港大学も多学部を擁しており、今後 IPE での短期留学の可能性がある。また、京都での国際フォーラムの機会に、IPE を実施しているオーストラリア・グリフィス大学と情報交換を行った。今後は、視察、共同研究など関係の発展が期待できる。

(2) 千葉県内の大学間連携による IPE プログラムの開発

①新たな千葉県内大学および各種専門学校での IPE 開発に協力する。

→ IPE カリキュラムマネジメント研修および IPE 基礎教育授業開発研修を開催し、県内の大学・専門学校の教員の参加を得た。(詳細は実践・社会貢献の項で後述)

(3) 大学院における IPE プログラムの開発

①IPE を取り入れた災害看護学の大学院教育の効果を評価し、社会実装の可能性を探索する。

→平成 31 年 3 月 4 日～6 日の集中授業にて「災害時専門職連携演習」を実施する。効果評価も実施していく。また本演習は、実際、災害対策本部の構成員となる行政職員等を対象にした研修として発展させる可能性を探索しているところである。

②看護学研究科大学院カリキュラム改正に向け、大学院専門職実践論の開講に向け準備する。他大学他研究科への科目等履修を視野に入れる。

→IPERC 将来構想委員会にて検討中である。大学院看護学研究科に副専攻として「専門職連携プログラム（仮）」を立ち上げ、本専攻に並行してとれるプログラムを設置の実現可能性を検討中である。

(4) 厚労省及び文科省との連携による標準 IPE プログラムの開発

①2017 年度の全国調査に基づき看護師等養成所における IPE プログラム開発を実施する。

→IPE カリキュラムマネジメント研修および IPE 基礎教育授業開発研修を開催した。（詳細は実践・社会貢献の項で後述）

②全国の健康関連専門職共通科目としての IPE カリキュラムの構築を厚労省、文科省、他大学 IPE リーディング大学と連携して実施する。

→厚労省看護基礎教育検討会に酒井センター長が委員として入っており、平成 32 年の改正省令施行、平成 34 年の改正省令を適用した教育の開始に向けた提言を行っている。また後述の IPE カリキュラムマネジメント及び教育方法に関する研修会を企画実施し、標準 IPE プログラムの実装化の推進に努力した。

3) FD の充実

(1) 亥鼻 IPE のファシリテーター教員対象の FD の改善

①Step 1～4、および CIPE の FT 研修 (FD) を実施する。そのための教材開発を行う。

→各 Step で担当教員および実習担当者、演習協力者への説明会および FD/SD を行った。

【Step1】6 月 4 日（月）22 名出席（医学部 6 名、看護学部 6 名、薬学部 1 名、工学部 6 名、IPERC3 名）

【Step2】5 月 10 日（木）36 名出席（医学部 2 名、看護学部 2 名、薬学部 2 名、附属病院医師 13 名、外部実習期間実習担当者 13 名、IPERC3 名）

【Step3】12 月 14 日（金）16 名出席（医学部 3 名、看護学部 3 名、薬学部 4 名、附属病院医師 3 名、IPERC3 名）

【Step4】9 月 7 日（金）25 名出席（附属病院 医師 6 名、看護師 4 名、薬剤師 1 名、ソーシャルワーカー 2 名、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、医学部 2 名、看護学部 4 名、薬学部 1 名、IPERC3 名）

→ FD 教材開発の目的で、2018 年 11 月、ヴァージニア大学で開催の「Train-the-Trainer (T3) interprofessional faculty development program」に特任教員 2 名を派遣した。結果、コーチング、ファシリテート、ディブリーフィングのヒントを得た。今後、亥鼻 IPE を担当する教員へのファシリテーション能力の向上を目指した FD を計画して行く予定である。

(2) 亥鼻 FD プロジェクトの拡大と安定的運営

①亥鼻 FD プロジェクトを亥鼻キャンパスに組織的に位置づける。そのための合意形成を行う。

→平成 29 年度より実施してきた亥鼻 FD プロジェクトを、IPE 及び IPW を促進するための FD としてブラッシュアップするために、IPERC 教員（兼務教員含む）を中心に 3 回のワーキング会議を実施

した。具体的には、キャンパス内での IPE だけではなく、大学病院での IPW 推進と連動できるような FD プログラムのあり方について、ニーズ・ビジョン・必要な構成メンバー等を議論した

(「2) 実践・社会貢献 (3) 千葉大学病院の IPW への貢献」の項目も参照)。

また、「亥鼻 FD プロジェクト」企画として、ファシリテートとインクルージョン (包摂) をテーマにした FD 企画を 2 回実施した。対象を学内教員だけでなく、大学病院の職員 (事務系含む) に拡大し、実質的に多職種連携の FD として位置付けた。今年度はのべ 43 人の参加者 (亥鼻 FD プロジェクト通算では 261 人の参加者) があり、いずれも参加者アンケートでは高い満足度のフィードバックを得ている。

2. 実践・社会貢献

1) IPE 研究拠点からの発信

(1) 健康関連専門職養成所における IPE カリキュラムマネジメントの研修

① IPE カリキュラムマネジメント及び教育方法に関する研修会を実施する。

→平成 30 年 8 月 31 日、9 月 1 日、平成 31 年 1 月 12 日の 3 日間コースで、IPE カリキュラムマネジメント研修を実施した。9 名の受講 (下記表参照) があつた。教育プログラム設計の基礎の基礎知識・IPE に関する基礎知識の伝達に加え、各校の IPE 実装の進捗に合わせ、組織分析と計画立案・戦略実施のためのコンサルテーションを行った。所定の条件を満たした 7 名に修了証書を発行した。

所属	領域	都道府県	人数
大学	看護学	兵庫 千葉 韓国	5
	薬学	兵庫	1
専門学校	看護学	千葉 熊本	2
その他	臨床心理	千葉	1

→11 月 10 日に、IPE 基礎教育授業開発研修を実施した。6 名の受講 (下記表参照) があつた。IPE の基礎知識・教育設計の基礎知識の伝達に加え、アクティブラーニングを想定した授業開発のワーク (学習目標設定・授業の構造と方略設計) を行った。6 名に修了証書を発行した。

所属	領域	都道府県	人数
大学	看護学	群馬	1
	薬学	群馬	1
専門学校	看護学	鹿児島 愛知 宮城 福岡	4

②教材の集約と整理、開発のための仕組みを開発する。そのための外部資金の獲得を行う。

→昨年度、酒井センター長が研究代表者として実施した「厚生労働行政推進調査事業：看護師等学校養成所における専門職連携教育の推進方策に関する研究」によって作成した【基礎教育 IPE の実装手順書】を教材として活用した。

また、国外・国内の教員向け IPE 関連研修について情報収集を行い、上記①の研修に活用可能な教材の集約整理、開発検討を行った。教育プログラムの設計に関しては、IPERC の外部評価委員でもある京都産業大学共通教育推進機構の川島啓二教授に講演を依頼した。

国外で開発された理論や枠組みも教材として導入した。（トロント大学「IPE 開発のためのフレームワーク」等）また、米国のミネソタ大学の IPE ナショナルセンター主催の T3 プログラム (Train The Trainers) を臼井特任講師および馬場特命助手が受講し、教材開発の情報収集を行った。

(2) 海外の健康関連専門職系大学との連携により国際的に互換性の高い IPE プログラムの開発及びカリキュラムマネジメントのコンサルテーション

①インドネシアを中心として、IPE カリキュラム開発のコンサルテーションを実施する。

→4月にインドネシア大学を訪問し、IPE カリキュラム開発および IPW 研究について、担当教員らのチームに対しコンサルテーションを行った。

→群馬大学 WHO 協力センター：多職種連携教育研究研修センター主催の「IPE Training Course 2018」2018.8.20-25（受講生：インドネシア、フィリピン、ラオスから合計17名）にて、酒井センター長がゲストスピーカーとして講演した。演題は、Introduction of the IPE Training Program at Chiba University である。

2) IPW の促進

(1) 千葉大学病院の IPW への貢献

①大学病院全職種新人研修を病院、医学部、薬学部と協働して実施する。

→兼務教員の朝比奈准教授を中心に実施した。

②大学病院の現任教育 IPE プログラム開発を大学病院と協働して実施する。

→「1) 教育 (6) FD の充実」の項目で述べた亥鼻 FD プロジェクトのワーキング会議において、学部内の IPE のみならず、大学病院での IPW や IPE を推進できる人材を育成するための FD の必要性が議論された。伊藤兼務教員を中心に、来年度以降の具体的なあり方を検討中である。

(2) 千葉県内及び全国の地域連携事業への協力を通して地域包括ケアシステム構築への貢献

①千葉県及び全国の健康関連専門職を対象とした現任教育 IPE プログラムを提供する。

②IPW リーダー養成事業を実施する。

③組織マネジメントにおける IPW の推進に関する研修事業を実施する。

→IPERC 主催で「IPW 指導者マネジメント研修」「IPW ベーシック演習（地域編）」「IPW ベーシック研修（医療編）」「IPW ベーシック研修（介護と看護）」を実施した。各研修の受講者は以下のとおりである。

研修名	所属	職種	都道府県	人数
IPW 指導者 マネジメント研修	医療機関	理学療法士	千葉	4人
		看護師	千葉	
		社会福祉士	大分	
	大学	管理栄養士	愛知	
IPW ベーシック研修（医療）	医療機関	医師	東京	6人
		看護師	神奈川	
			東京	
			埼玉	
	PSW	青森		
大学院生	看護師	韓国		
IPW ベーシック研修（地域）	医療機関	理学療法士	千葉	4人
		看護師	千葉	
		作業療法士	東京	
	地域包括支援センター	介護支援専門員	東京	
IPW ベーシック研修（介護と看護）	医療機関 9	看護師 5	東京	29人
			千葉 3	
			京都	
		介護職 4	東京	
			千葉 3	
		特別養護老人ホーム	看護師	
			神奈川	
	介護老人保健施設 14	介護職	東京	
		看護師 8	東京 8	
	その他	介護職 6	東京 6	
		看護師	東京	
		介護士	東京	
介護支援専門員		東京		

④地域包括ケアシステムにおける連携協働の仕組みづくりへのコンサルテーションを実施する。

→千葉市東千葉地区における住民の主体的な地域活動「地域の和・輪・輪（わわわ）の会」への関わりを継続している。2月23日に会主催の「東千葉フォーラム 2019～認知症になっても安心して暮らせる地域って？」に井出特任准教授が出席し、平成27年度に実施した住民アンケートの結果から、地域とのつながりの実態と地域活動への参加について調査結果を報告した。

→東千葉地区住民には、看護学研究科共同災害看護学専攻の「災害時専門職連携演習」への協力をしていた（3月4日～6日集中講義）。

→普遍科目の地域コア「チームで取り組む地域活動入門」において、演習の教材として東千葉地区の地域活動を取り上げている。科目担当者である千葉大学医学部附属病院地域医療連携部の竹内公一特任准教授、看護学研究科石丸美奈准教授とともに本センターの井出特任准教授が一部を担当した。

→千葉県から委託を受け、「認知症にかかわる専門職の多職種連携研修」を実施した。本研修は、平成28年に講師として酒井センター長ほかセンター特任教員が協力した後、平成29年度から事業委託を受け実施しているものである。研修は2回実施し、合計189名の参加があった。参加職種は、看護職77名（40.7%）、介護職38名（20.1%）、介護支援専門員26名（13.8%）、社会福祉士・精神保健福祉士19名（10%）、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士13名（6.9%）、薬剤師3名、医師3名、歯科医師1名、その他8名であった。

実施日	第1回 平成31年1月13日（日）10:00-15:30 第2回 平成31年2月3日（日）10:00-15:30
内容	アイスブレイク 臼井いづみ 特任講師 講義1 「認知症の現状と行政の取り組み」 第1回 山下春菜氏 千葉県健康福祉部高齢者福祉課 認知症対策班 技師 第2回 深山幸子氏 同上 班長 講義2 「多職種連携に必要な考え方と基礎知識」 両回とも 酒井郁子 専門職連携教育研究センター長 ワークショップ1 「認知症の人の理解」VR体験 ファシリテーター 馬場由美子 特命助手 講師：第1回 （株）シルバーウッド 大谷匠 第2回 同 黒田麻衣子 ワークショップ2 「多職種カンファレンス」 ファシリテーター 井出成美 特任准教授

→平成30年9月2日（日）に、千葉市川戸地区からの依頼で、地域の防災訓練で避難所運営訓練の運営について協力を行った。約30名の地域住民の参加があった。

→平成30年9月9日（日）に、千葉大学医学部附属病院で実施された多数傷病者対応訓練の運営に協力した。

→平成30年12月8日に千葉大学医学部附属病院他を会場にして実施された。平成30年度DMAT関東ブロック訓練に協力した。避難所運営訓練（HUG）を担当し、協力住民の募集や、当日の運営、DMATとの連携についてのサポートを行った。

3) 政策提言

(1) 厚労省、文科省との連携による IPE 必修化への提言

①厚労省看護基礎教育検討会(仮)構成員にセンター長として入り、平成 32 年の改正省令施行、平成 34 年の改正省令を適用した教育の開始に向けた提言を行う。

②健康関連専門職基礎教育課程における共通科目の設定について、厚労省、文科省に意見を提出する。

→上記の通り検討会にて意見を提言している。

3. 研究

1) IPE 研究の進化

(1) IPE および IPW の理論化及び成果検証研究の実施公表

①医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポート

→酒井センター長が定期的あるいは不定期に、各学部の教員の実施している IPE 研究の助言指導を行った。

②IPE 等成果研究の発信

→亥鼻 IPE、IPW 研修等の成果研究を行い、国内・国際学会および学会誌投稿などで発進した(下記の通り)。

1. Narumi IDE, Mayumi ASAHINA, Zaiya TAKAHASHI, Izumi USUI, Yumiko BABA, Ikuko SAKAI :Reaction of students and instructors in clinical IPE as a trial program at Chiba University in Japan. Book of Abstracts, the 3rd Asian Congress in Nursing Education, 34, 2018.
2. Izumi USUI, Narumi IDE, Zaiya TAKAHASHI, Yumiko BABA, Ikuko SAKAI: Chages in nurse image after IPE: comparison of 3 departments in healthcare. Book of Abstracts, the 3rd Asian Congress in Nursing Education, 48, 2018.
3. 朝比奈真由美, 井出成美, 臼井いづみ, 黒河内仙奈, 酒井郁子, 伊藤彰一: 臨床指導者への調査から得られたクリニカル I P E 実施上の課題, 第 50 回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育 49supple, 98, 2018.
4. 馬場由美子, 井出成美, 臼井いづみ, 高橋在也, 朝比奈真由美, 関根祐子, 酒井郁子: 専門職連携学習自己評価得点を用いた経年蓄積型 IPE の学習効果の検討. 第 11 回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 62, 2018.
5. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 高橋在也, 酒井郁子: 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修プログラムの短期的効果の検証. 第 11 回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 55, 2018.
6. 朝比奈真由美, 井出成美, 臼井いづみ, 黒河内仙奈, 酒井郁子, 伊藤彰一: クリニカル I P E の臨床指導者への影響. 第 11 回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 40, 2018.
7. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 高橋在也, 酒井郁子: 専門職連携教育の効果(第 1 報): 看護師イメージの変化について, 千葉看護学会第 24 回学術集会講演集, 29, 2018.
8. 井出成美, 朝比奈真由美, 伊藤彰一, 関根祐子, 石川雅之, 臼井いづみ, 馬場由美子, 酒井郁子: 千葉大学クリニカル I P E—大学病院における医・薬・看の診療参加型 I P E—. 保健医療福祉連携, 11(2), 123-130, 2018.

③IPE 実装の方法論の開発

→酒井センター長が研究代表者として実施した「厚生労働行政推進調査事業：看護師等学校養成所における専門職連携教育の推進方策に関する研究」によって得られた調査結果をもとに【基礎教育 IPE の実装手順書】を開発した。これは、本年度から開始した IPE カリキュラムマネジメント研修・基礎教育授業開発研修にて教材として活用した。

④IPW、IPE の理論化

→IPE カリキュラムマネジメント研修、基礎教育授業開発研修、IPW 指導者マネジメント研修、IPW ベーシック研修の実施を通して、IPE の背景となる学習理論や社会化理論の整理、教育者実践者向けの専門職連携能力向上のための演習のコンテンツ整理や体系化を図った。

また、井出特任准教授が文部科学省科学研究費：基盤研究 C「学生の専門職間連携能力の発展を促進する IPE プログラムの実装に有用な学習理論開発」平成 30 年度~34 年度を獲得し、研究計画に沿って実行中である。

4. 組織運営

1) 予算と人材の確保

(1) 新たな外部資金の確保

①研修事業を立ち上げ自己収入を得る

→新規事業として、①IPE カリキュラムマネジメント研修②IPE 基礎教育授業開発研修③IPW 指導者研修・マネジメント研修④IPW ベーシック研修（地域系）⑤IPW ベーシック研修（医療系）⑥IPW ベーシック研修（介護と看護）を計画し実施した。合計名の参加が得られ、研修受講費として約 100 万円の自己収入となった。

→上記①のほか、文部科学省の科学研究費補助金の獲得、千葉県からの研修委託（認知症に関わる多職種協働研修）、企業団体からの寄付金（ユニコ）の獲得により、事業運営の安定化を図った。

(2) 亥鼻キャンパス内での予算枠組みの再構築と事業運営の安定化

→IPERC の事業費は、国立大学改革強化推進補助金「次世代対応型医療人育成と治療学創生のための亥鼻キャンパス高機能化構想」からの拠出が主な資金源であったが、平成 31 年度が最終年である。特に亥鼻 IPE の実施に関わる予算については恒久的に確保できる枠組みを構築する必要があるため、亥鼻 IPE に関わる 4 学部の事務部との話し合いにより、学生定員数の配分割合により 4 学部拠出による「亥鼻 IPE 実施経費」予算枠を構築した。

2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営

(1) 年間事業計画の策定と実施、評価

(2) 各種運営マニュアルの修正

①運営委員会の開催

→第 1 回（平成 30 年 5 月 15 日）、第 2 回（平成 30 年 10 月 16 日）、第 3 回（平成 31 年 2 月 5 日）運営委員会を開催した。

②教育実践研究部会の開催

→必要に応じて、各学部兼務教員と特任教員で構成する教育実践研究部会を開催した。本年は、下記のとおり実施した。

第1回 平成30年11月15日(木) 場所：薬学棟セミナー室

議題：亥鼻 IPE 各 STEP の課題の整理と対策、FD の方向性

第2回 平成31年1月17日(木) 場所：IPERC

議題：亥鼻 IPEStep2 のフィールドについて

そのほか、来年度の亥鼻 IPE 日程について、メール会議を開いて協議した。

→「教育」・「研究」・「実践・社会貢献」の枠組みで年間事業計画を策定しそれに沿って実施している。

3) IPERC の将来構想

(1) IPERC を含む総合教育棟の概算要求

(2) IPE に関する大学院の設置に向けた検討

→IPERC 将来構想検討委員会を設け協議を重ね、方向性を話し合った。看護学研究科の再編や、建物の建て替え計画の時期に合わせ、IPERC の発展形としてのセンター構想計画を実現できるよう準備を進めている。

大学院設置に関しては、副専攻として専門職連携コースを設置し、所定単位を修得すれば修了証書を発行する方向で実現可能性を検討している。

IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

1. 平成 30 年度外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、平成 30 年度外部評価委員会を開催した。

日 時：平成 31 年 3 月 19 日（火）10 時から 12 時

場 所：千葉大学看護学部 大会議室（管理棟 2 階）

出席者：外部評価委員 4 名

川島 啓二 京都産業大学共通教育推進機構 教授
新井 利民 埼玉県立社会福祉こども学科 准教授
福田 浩子 千葉県健康福祉部健康づくり支援課
井手 正明 千葉大学医学部 SP（模擬患者）会

センター運営委員会委員 9 名

酒井 郁子 専門職連携教育研究センター センター長
朝比奈真由美 医学部附属病院 准教授
関根 祐子 大学院薬学研究院 教授
石川 雅之 大学院薬学研究院 助教
眞嶋 朋子 大学院看護学研究科 教授
池崎 澄江 大学院看護学研究科 准教授
井出 成美 大学院看護学研究科 特任准教授
臼井いづみ 大学院看護学研究科 特任講師
馬場由美子 大学院看護学研究科 特命助手

欠席者：外部評価委員 1 名

渡邊 秀臣 群馬大学大学院保健学研究科 教授

センター運営委員会委員 10 名

市川 智彦 医学部附属病院 副病院長
石井 伊都子 医学部附属病院 薬剤部長
田澤 敦代 医学部附属病院 副看護部長
相馬 孝博 医学部附属病院 医療安全管理部長
清水 栄司 医学部 教務委員長
小椋 康光 薬学部 教務委員長
石橋 みゆき 看護学部 副教務委員長
齊藤 一幸 フロンティア医工学センター 准教授
伊藤 彰一 医学研究院 講師
高橋 在也 大学院看護学研究科 特任講師

内容・議事：

酒井センター長から開会の辞があり、中村伸枝研究科長から挨拶があった。

外部評価委員会に関する内規第 5 条に基づき、外部評価委員長・および副委員長を互選にて選出した。委員長に川島氏が選出され、委員長が議事進行を行った。まず、井出特任准教授から平成 30 年度事業実施状況と平成 31 年度事業計画について説明があり、質疑応答・意見交換を行った。最後に外部評価委員が講評を述べた。

2. 外部評価委員による講評

欠席した渡邊氏以外の4名の外部評価委員には、平成30年度の実施項目について、「A：計画より進捗している、B：計画通り進捗している、C：計画よりやや遅れがある、D：計画よりかなり遅れがある」の評価基準での評価と総合評価コメントをいただいた。外部評価委員からの評価コメント（原文まま）を掲載する。

	IPERC 自己評価	外部評価委員評価			
		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
1. 教育	B		4名		
2. 実践・社会貢献	B	3名	1名		
3. 研究	C		4名		
4. 組織運営	B	1名	3名		

【総合評価コメント】

A 委員	<p>IPERC の理念・ビジョン・ミッションに沿った様々な活動を実践されているのがよく判りました。医学、看護学、薬学、さらに工学も加え、それぞれの専門に加えて、さらにその連携を学ぶ、教える、あるいはその人材を育成するのは大変なことと思います。IPERC がその中心的な役割を担って計画されていることを着実に実践されていることがよく判りました。また、自らの活動を PDCA サイクルでしっかり自己評価し、改善の努力を怠らない姿勢も素晴らしいと思います。2019 年度の計画も着実に実践されることを期待します。（組織運営は、しっかり PDCA を回されている組織としての改善意欲をプラスして A とします）</p>
B 委員	<p>専門職連携の中で重要なことは、「患者にとって今後どうありたいかの目標・姿」を共有すること、専門職それぞれの専門性・役割を自身が自覚し、的確に言葉で表現できることと考える。また、患者の背景（住んでいるところ、家族・社会での立場等）を想像しながら、対応できるようにするとよりよい演習・教育ができることと考える。</p> <p>実践的な活動の中で専門職連携を取り入れており、社会の中での成果（地区住民へのコンサル、認知症講演会での千葉県との協働、千葉大病院でのDMAT 訓練）が、実践者の連携能力向上の場面としてわかりやすいので、続けていただきたい。研究については、今後、ご研究いただき、方法論の開発等につなげていただきたい。</p> <p>研究受講費の取得について、専門職は実践者として活動していても、専門能力の向上は責務であり、研鑽に対価を支払うことは当然である。また、IPE の効果の裏付けとして、大学運営に経費を組み込んでいただけると良いと考える。</p>
C 委員	<p>「教育」については目標が着実に達成されている。また、大学院における IPE プログラムの開発などは、既存の枠組や方法論に拠りきれないところもあり、開発とプログラムの位置づけの難しさが察せられる。「実践・社会貢献」については、達成されたリストは目標の枠内に留まるものの、困難な内容に挑戦的に取り組まれており、想定以上の充実した内容が実現されているという意味で A 評価が妥当であると判断する。「研究」については成果発信という目標は達成されているので B 評価が妥当である。「組織運営」についても、目標が着実に達成されている。総じて言えば、本外部評価の評価枠組は、チェックリストとして取組の詳細とその達成は確認できるものの、事業の全体像が見えにくいのではないかと感じる。IPERC のビジョンには「IPE 研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」とある。ビジョンというものが将来像の具体的な明示であるなら、外部評価の詳細かつ具体的な各項目における個々の目標達成によって、「専門職連携学の構築と組織的な発展」というゴールにどれだけ近づいていることになるのか、両者を繋ぐわかりやすい説明が欲しいところである。理想を言えば、各取り組みの成果が、設置を目指す大学院のカリキュラムの基盤的な枠組となることであろう。専門職連携学と何を意味するのか、未踏の領域に立ち入ることになるので、その定義は簡単ではないだろうが、ゴールを意識しながらの各取組のより一層の進展を期待したい。</p>

教育活動に関しては、カリキュラム改変に伴う運用の様々な変更もありながらも、既存のプログラムの安定的発展を図るための努力が行われている。また、臨床 IPE 試行事業も、学生にとっても臨床現場にとっても専門職連携を学ぶ重要な機会となっており評価できる。レスター大学への短期留学も、学生に豊かな学びがあったことが示唆された。今後は、亥鼻 IPE の質の向上のために、FD のさらなる発展・実施と共に、臨床 IPE の必修化へ向けた学内合意形成や、地域医療や在宅福祉も視野に入れた IPE プログラムの開発、医療系以外の分野を学ぶ学生や学校とのコラボレーションの可能性を検討していただきたい。

D
委
員

実践・社会貢献に関しては、IPE カリキュラムマネジメント研修会や IPE 基礎教育授業開発研修は日本唯一のものと言ってもよく、これまでの知見を他の高等教育機関に広める貴重な事業でその意義は深い。また、千葉県内をはじめとする地域連携事業への協力についても、地域からの期待も高いことがうかがえる。今後は、これらの研修事業などから得た知見と、学部・大学院教育の内容や方法論との相互作用を図り、ともにさらなる発展を図ることを期待したい。研究活動は、学会発表などは数多く行っており評価できる。今後論文文化はもちろんのこと、書籍化によって広く成果を広めていただくことを期待したい。

組織運営については、外部資金、企業からの寄付や研修事業による収益も確保され、評価できる。貴センターの取り組みは、これまで様々な知見を蓄積してきたスタッフの尽力によるところが大きいことが推察され、今後のセンターの維持・発展のために、2020 年以降のスタッフの人件費の確保については早急に目途を立てることが望まれる。

3.外部評価委員の講評のまとめ

PDCA サイクルによるセンター運営を行う上で重要な外部評価を受けた。5 名の外部評価委員は、昨年引き続き、大学教育の専門家、IPE に精通し IPE 国際センターを有している他大学の教員、IPE を実施している他大学の教員、県内地方自治体の保健福祉分野の行政職、亥鼻 IPE の協力者という多方面からご参集いただいた。以下、当日出席いただいた 4 名の外部評価委員の評価・コメントを踏まえて今後の課題を記載した。

1) 教育について

カリキュラム改編などの変更があるなか、既存のプログラムの安定的な発展のために、学生や教員からのフィードバックを基に改善を重ねている努力について高評価をいただいた。

大学院における IPE プログラムの発展については、センターのビジョンである専門職連携学の構築に向けて、重要な布石となることから、看護学研究科ですでに開講しているいくつかの科目を発展させながら、教育事業・研修事業での実績を基盤にして科目体系を整えつつ、関係者と話し合いを進めながら着実に進めていきたい。

2) 実践・社会貢献について

新規事業である IPE カリキュラムマネジメント研修、IPE 授業開発研修、IPW 指導者マネジメント研修、IPW ベーシック研修の実施について、実践に貢献できる事業として、また他に類を見ない事業としてその意義を評価していただいた。本研修については、受講料による自己収入を得られた点で、組織運営の面でも運営の安定化に貢献できた。来年度以降も、内容の改善や発展を図りつつ、継続して実施していきたい。

3) 研究について

教育評価研究について、国内外の学会等で公表していることについて評価いただいた。今後は論文文化、書籍化によって広く成果を広めていくことを求められている。一層努力していきたい。

4) 組織運営について

外部資金、企業からの寄付や研修事業による収益を得て運営の安定化を図ったことや、PDCA を回し改善を図っている努力について評価いただいた。

評価の視点として、事業の実施評価だけでなく IPERC のビジョンの達成に向けた全体評価を求められた。来年度は長期目標の最終年度である。ビジョンに向けた達成状況を明らかにし、次の目標に向けたビジョンの再整理を行いたい。

V. 資料

(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				クリニカルIPE				合計		
	医学部	看護学部	薬学部	工学部	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他(他大生)	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部		計	
2007~2010	415	335	328		1078	302	249	243	794	199	163	93	-	455	95	89	41	225	-	-	-	-	2552
2011	113	84	86		283	119	86	84	289	103	84	39	-	226	102	76	43	221	-	-	-	-	1019
2012	117	85	88		290	115	80	87	282	119	83	37	-	239	101	85	38	224	-	-	-	-	1035
2013	118	84	88		290	116	86	89	291	123	83	44	-	250	123	85	35	243	-	-	-	-	1074
2014	119	84	83		286	117	83	87	287	120	81	50	-	251	124	81	49	254	-	-	-	-	1078
2015	121	83	87		291	116	85	83	284	130	83	46	16	275	113	83	42	238	4	4	3	11	1099
2016	119	80	84		283	119	84	87	290	123	85	45	5	258	131	83	40	254	15	13	13	41	1126
2017	118	84	86	54	342	117	80	84	281	125	80	45	5	255	124	84	40	248	17	17	16	50	1176
2018	117	84	85	44	330	114	80	84	278	117	162	42		321	132	79	45	256	11	17	10	38	1223
					3473													2163					11382

協力教員及び外部機関専門職 ※IPERC教員を除く (総計1227名) *医学部は附属病院医師含む。

**附属病院は医師以外

年次	Step1 (教員)					Step2 (教員、外部機関専門職)					Step3 (教員、外部機関専門職)						
	*医学部	看護学部	薬学部	工学部	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計
2007~2010	31	44	37	-	112	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2011	8	10	10	-	28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2012	8	11	9	-	28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2013	13	14	13	-	40	4	6	5		0	15	4	6	5	0	-	15
2014	12	15	15	-	42	5	5	7		0	17	4	10	6	3	40	63
2015	17	12	6	-	35	7	7	6		22	42	15	8	5	3	24	55
2016	16	10	7		33	6	6	7	2	1	22	7	13	6	3	1	30
2017	14	11	7	10	42	6	6	6	2	1	21	8	10	6	-	-	24
2018	9	10	6	12	37	7	5	5	-	0	17	9	9	6	-	-	24

年次	Step4														クリニカルIPE					合計				
	医学部	看護学部	薬学部	附属病院											外部機関	計	医学部	看護学部	薬学部		附属病院			計
				医師	看護師	薬剤師	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士	心理カウンセラー	遺伝カウンセラー	管理栄養士	医師							看護師	薬剤師		
2007~2010	1	2	2	11	10	3	3	3	2	6	1	1	4	49	-	-	-	-	-	-	-	-	161	
2011	2	6	2	9	6	1	3	3	2	3	1	1	2	1	42	-	-	-	-	-	-	-	70	
2012	3	4	2	11	7	3	2	3	1	5	1	1	4	47	-	-	-	-	-	-	-	-	75	
2013	5	6	3	9	9	3	3	3	1	5	1	2	4	54	-	-	-	-	-	-	-	-	124	
2014	3	5	3	10	9	3	3	3	1	4	1	1	4	50	-	-	-	-	-	-	-	-	172	
2015	1	8	5	16	9	3	3	3	2	5	1	1	4	61	2	4	1	3	2	0	12	205		
2016	1	9	7	14	9	4	3	3	2	7	0	2	4	65	2	5	2	13	22	19	63	213		
2017	2	7	6	13	9	5	3	3	1	7	1	2	4	63	2	8	3	14	20	14	61	211		
2018	2	6	4	15	10	5	4	4	2	5	1	2	4	64	2	7	3	10	12	12	46	188		

協力TA [大学院生] (総計236名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				合計					
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他	計	医学部	看護学部	薬学部		その他	計			
2007~2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95	
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	3	1	2	1		4				19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	4	2	3	1		6				19
2016	1	3	0	4	0	1	1	2	1	0	0	0	1	1	3	0	1	5				12
2017	1	2	4	7	1	0	5	6	1	2	2	0	5	4	1	4	0	9				27
2018	0	2	4	6	2	0	4	6	0	1	2	0	3	0	2	6	0	8				23

実習協力施設（総計569施設）										
年次	Step1	Step2						クリニカルIPE		
	病院	病院	診療所・クリニック	薬局	訪問看護ステーション	回復期リハビリテーション病棟	保健機関・介護福祉施設	計	附属病院診療科	合計
2007~2010	24	15	32	52	25	-	21	145	-	169
2011	6	5	11	15	11	-	8	50	-	56
2012	6	5	9	22	9	-	4	49	-	55
2013	6	6	12	21	6	-	3	48	-	54
2014	7	6	11	17	6	3	2	45	-	52
2015	6	6	11	15	5	4	3	44	2	52
2016	6	7	11	15	5	6	3	47	10	63
2017	7	11	10	15	5	3	5	49	12	68
2018	7	7	11	13	5	3	3	42	9	58

FD/SDの参加者数（総計1185名）				*2016~亥鼻FDプロジェクト開始				授業に協力いただいた患者団体(総計77団体)	
年次	Step1	Step2		Step3	Step4	*その他	合計	2007~2010	48
		実習施設担当者	ファシリテーター						
2007~2010	88	44	-	-	28	105	265	2007~2010	48
2011	17	33	-	-	23	-	73	2011	17
2012	17	31	-	-	17	-	65	2012	2
2013	20	17	-	-	25	-	62	2013	2
2014	31	15	-	61	25	-	132	2014	2
2015	10	28	43	52	24	22	179	2015	2
2016	21	42	-	29	35	54	181	2016	2
2017	23	21	-	21	29	134	228	2017	2
2018	22	36	-	16	25	43	142	2018	2

(資料2) 学習のまとめ (別冊)

(資料3) 平成30年度 試行事業報告 クリニカル IPE (別冊)

(資料4) 地域貢献事業実績
【国内】

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
1 事業委託	行政機関	千葉県健康福祉部高齢者福祉課	認知症に関わる多職種協働研修の講師	認知症の現状と行政の取り組み 専門職連携の基礎的知識 ワークショップ	2019/1/13 2019/2/3	10:00～15:30	千葉大学亥鼻キャンパス 看護・医療系総合研究棟	酒井 郁子センター長 兼任 井出成美 兼任 臼井 いつみ 兼任 馬場 由美子
2 講師派遣	学内	千葉大学医学部附属病院	大病院入院職者研修	講義とワークショップ 医療安全に役立つIPW	2018/4/2	13:30-14:00	医学部附属病院 カーネットホール他	兼務 朝比奈真由美
3 講師派遣	保健医療福祉機関	千葉中央メディカルセンター	教育セミナー	医師の倫理とプロフェッショナルリズム	2018/6/15		千葉中央メディカルセンター	兼務 朝比奈真由美
4 講師派遣	その他	フロムページ	夢ナビライブ講演	患者中心の医療を実現する専門職 連携教育の理念と実践	2018/7/14		東京国際展示場	兼務 朝比奈真由美
5 情報発信	学内	千葉大学医学部附属病院	all-byo-ing	クリニカルIPEの紹介	2018/7/17		医学部附属病院	兼務 朝比奈真由美
6 講師派遣	他大学	愛知医科大学	学部3年生へのワークショップ	プロフェッショナルリズム・ワークショップ	2018/11/9		愛知医科大学	兼務 朝比奈真由美
7 講師派遣	他大学	愛知医科大学	教員向けFD	大学における倫理・プロフェッショナルリズム教育	2018/11/9		愛知医科大学	兼務 朝比奈真由美
8 情報発信	学内	看護学研究科	オープンキャンパスでのIPERCのPR	亥鼻IPEおよびIPERCに関するポスター掲示	2018/8/8		看護学研究科	兼任 井出成美
9 コンサル(授業視察)	大学以外の教育機関	学校法人 青照学舎 メディカルカレッジ青照館 運営機構改革推進室	IPE Step1の見学依頼	IPE Step1の見学対応	2018/6/20	12:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 兼任 井出成美
10 コンサル(授業視察)	大学以外の教育機関	学校法人 青照学舎 メディカルカレッジ青照館 運営機構改革推進室	IPE Step2の見学依頼	IPE Step2の見学対応	2018/6/21	12:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 兼任 井出成美
11 コンサル(授業視察)	他大学	兵庫医療大学	IPE Step3の見学依頼	IPE Step3の見学対応	2018/12/25,26	8:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 兼任 井出成美 兼任 臼井いつみ 兼任 馬場由美子

12	コンサル(授業 視察)	他大学	武蔵野大学	IPPE Step3の見学依頼	IPPE Step3の見学対応	2018/12/26	8:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特任 馬場由美子
13	コンサル(授業 視察)	他大学	昭和薬科大学	IPPE Step3の見学依頼	IPPE Step3の見学対応	2018/12/26	8:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特任 馬場由美子
14	コンサル(授業 視察)	他大学	愛知文教短期大学	IPPE Step3の見学依頼	IPPE Step3の見学対応	2018/12/25,26	8:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特任 馬場由美子
15	コンサル(その他)	他大学	東京医科歯科大学	IPPEの外部評価委員	外部評価	2019/1/22		東京医科歯科大学	兼務 朝比奈真由美
16	コンサル(その他)	他大学	埼玉県立看護大学	IPPEの外部評価委員	外部評価				酒井郁子センター長
17	講師派遣	その他	公益財団法人東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護支援センター	看護実務者研修講師	多職種協働	2018/11/12	13:00-14:00	東京都福祉保健財団	特任 井出成美
18	講師派遣	その他	公益財団法人東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護支援センター	看護実務者研修講師	多職種協働	2018/12/13	13:00-14:00	東京都福祉保健財団	特任 井出成美 特任 臼井 いつみ 特命助手 馬場由美子
19	主催事業			IPPEカリキュラムマネジメント研修	教育プログラム設計の基礎 IPPEの国際的発展 専門職連携の基礎知識 IPPEと組織改革 IPPE実業の現状と課題 IPPE実装に向けた組織分析と計画立案	2018/8/31 9/1 2019/1/12	9:30-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス 看護・医療 系総合研究棟	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特任 馬場由美子
20	主催事業			IPPE授業開発研修	IPPEの基礎知識 学習目標の設定 教材作成計画	2018/11/10	9:30-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス 看護・医療 系総合研究棟	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特任 馬場由美子
21	主催事業			IPWマネジメント研修	専門職連携の基礎知識 組織改革の基礎 チームとは IPW促進に向けた組織分析 分析の共有	2018/9/22 9/23	9:30-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス 管理棟	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特任 馬場由美子

22	主催事業				IPWベースリック研修(医療編)	チームについて 職種間コミュニケーション カンファレンスでのコミュニケーション 模擬カンファレンス	2018/10/27	9:30-16:00	千葉大学 亥鼻キャンパス 看護・医療系総合研究棟	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特任 馬場由美子
23	主催事業				IPWベースリック研修(地域編)	専門職連携の基礎知識 対立の解決 職種間コミュニケーション カンファレンスでのコミュニケーション 模擬カンファレンス	2018/10/28	9:30-16:00	千葉大学 亥鼻キャンパス 看護・医療系総合研究棟	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特任 馬場由美子
24	コンサル(その他)	行政機関	厚生労働省		厚生省看護基礎教育検討会	平成32年改正省令とそれに適用した教育への提言	2018/4/12, 5/21,7/20, 8/30,10/26, 2019/1/30		厚生労働省	酒井郁子センター長
25	情報発信	学会	第18回国際薬理学・臨床薬理学会		シンポジウム: Education and training でのシンポジスト	IPE in clinical pharmacology education and influence at the bedside	2018/7/3	9:25-11:05	Kyoto International Conference Center, Kyoto	運営委員 石井伊都子
26	講師派遣	他大学	群馬大学 WHO協力センター多職種連携教育研修センター		IPE Training Course 2018での招聘講演	Introduction of the IPE Training Program at Chiba University	2018/8/21	14:45-15:45	群馬大学	酒井郁子センター長
27	講師派遣	学会	日本看護学校協議会		第30回日本看護学校協議会学会における基調講演	専門職連携教育の理論と現状	2018/8/23	14:40-15:40	サンポートホール高松	酒井郁子センター長
28	情報発信	学会	日本プライマリケア連合学会関東甲信越ブロック大会		拡大ワークショップの開催	医師と看護師が乗り越えるべきコミュニケーション上のクリティカルポイント	2018/11/18	9:00-10:30	TKPガーデンシティ 千葉	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命助手 馬場由美子
29	講師派遣	他大学	京都橋大学		看護国際フォーラム2018 つながる、ひろがるケアリングの輪-専門職連携教育のこれから-	千葉大学におけるIPEの紹介	2018/12/1		国立京都国際会館	酒井郁子センター長
30	講師派遣	学会	日本医療薬学会		講演	千葉大学におけるIPEの紹介	2018/11/23-25		神戸コンベンションセンター	運営委員 石井伊都子
31	講師派遣	その他	千葉市中央区東千葉地区住民フォーラム		講演および助言	東千葉地区住民の 地域とのつながりの実態と 地域活動への参加	2019/2/23	13:00-16:00	千葉医療センター 地域医療研修センター	特任 井出成美
32	コンサル(研修)	その他	千葉市中央区戸町3自治会		地区防災訓練	避難所運営訓練ゲームの実施	2018/9/2	9:00-12:00	千葉市立川戸小学校	酒井郁子センター長 特任 臼井いづみ 特命助手 馬場由美子

33	その他	学内	千葉大学医学部附属病院	多数傷病者受け入れ訓練協力	記録・運営に協力	2018/9/9	8:00-12:00	千葉大学医学部附属病院	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命助手 馬場由美子
34	その他	学内	千葉大学医学部附属病院	DMAT関東ブロック訓練への協力	DMAT訓練用HUGの開発 避難所運営訓練の実施、DMATとの連携へのサポート	2018/12/8	10:00-15:00	千葉大学医学部附属病院	特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命助手 馬場由美子
35	CICS29	職能団体	千葉県流山市薬剤師会	CICS29を使いたい	薬剤師在宅業務の推進のための多職種連携の会の効果測定に私用したい	2018/10/10			酒井郁子センター長
36	CICS29	他大学	目白大学心理学研究科 院生	CICS29を使いたい	修士論文の研究で使用したい	2018/10/12			酒井郁子センター長

【海外】

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
1 講師派遣	学会	The 3rd Asian Congress in Nursing Education	基調講演	Globalisation of Interprofessional Education Program:Trends and Opportunities	2018/4/18	10:30-11:00	ジョグジャカルタ インドネシア	酒井郁子センター長
2 その他	学会	The 3rd Asian Congress in Nursing Education	クローズドミーティング	アジア圏のIPEの発展について	2018/4/18		ジョグジャカルタ インドネシア	酒井郁子センター長
3 コンサル(カリキュラム)	他大学	ユニコインターナショナル インドネシア大学	インドネシア University Hospital Establishment Body in University of Indonesiaへのコンサルテーション	インドネシア大学の病院運営とIPEに関するマスタープラン策定へのコンサルテーションミーティング IPEおよびIPWIに関する研究へのコンサルテーション	2018/4/23		University of Indonesia (Jakarta)	酒井郁子センター長
4 コンサル(カリキュラム)	その他	ユニコインターナショナル インドネシア大学	インドネシア University Hospital Establishment Body in University of Indonesiaへのコンサルテーション	先に関する打ち合わせ会議	2018/5/25/31		千葉大学 IPERC	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子

5	コンサル(カリキュラム)	他大学	ウィスコンシン大学マディソン校 University of Wisconsin-Madison	交換留学プログラムの相談	看護学部では交換留学プログラムとしてIPEを検討しており、IPERCへのヒアリングを希望して来学。	2018/5/25		千葉大学 IPERC	酒井郁子センター長 特任 高橋 在也
6	コンサル(授業視察)	その他	韓国中央大学校 博士課程 院生	亥鼻IPEの見学	IPEを研究テーマとしているため、亥鼻IPEの見学を希望する Step1の見学	2018/5/9, 5/23,5/30, 6/20,6/27	12:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
7	コンサル(授業視察)	その他	韓国中央大学校 博士課程 院生	亥鼻IPEの見学	IPEを研究テーマとしているため、亥鼻IPEの見学を希望する Step2の見学	2018/5/10, 5/17,6/7, 6/14,6/21	12:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
8	コンサル(授業視察)	その他	韓国中央大学校 博士課程 院生	亥鼻IPEの見学	IPEを研究テーマとしているため、亥鼻IPEの見学を希望する Step4の見学	2018/9/12, 9/13,9/14	8:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
9	コンサル(カリキュラム)	他大学	Universitas Gadjah Mada	亥鼻IPEについて情報収集	IPEに関連したテーマでワールドカフェ方式のディスカッションを実施	2018/10/10	13:30-15:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
10	コンサル(カリキュラム)	他大学	セイナイヨキ応用科学大学 Seinäjoki University of Applied Sciences	亥鼻IPEについて情報収集	IPEに関連したテーマでワールドカフェ方式のディスカッションを実施	2018/10/10	13:30-15:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
11	その他	他大学	Hong Kong University	看護学部学生の亥鼻IPE参加	IPERCにて亥鼻IPEのオリエンテーション後Step3に参加	2018/12/25,26	8:50-16:00	千葉大学亥鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
12	コンサル(カリキュラム)	他大学	HESAV University of Applied Sciences and Arts Western Switzerland Health Council	亥鼻IPEについて情報収集	IPERCにて亥鼻IPEの概要説明と質疑応答	2023/2/15	13:00-15:00	IPERC	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子

(資料5) 研究業績

特任教員および兼務教員の研究業績を下記に記す。下線は専任教員（兼務教員）、二重下線は特任教員を示す。

[原著]

1. Tomotaki A, Fukahori H, Sakai I, Kurokohchi K : The development and validation of the Evidence – Based Practice Questionnaire: Japanese version. International Journal of Nursing Practice. 2018 Apr;24(2):e12617. doi: 10.1111/ijn.12617. 2018.
2. 菅原聡美,黒河内仙奈, 酒井郁子 : 国立大学病院における看護師リーダーに必要なコンピテンシーインタビューと参加観察から. 千葉看会誌, 24(1). 23-31. 2018.
3. 佐藤紀子,雨宮有子,細谷紀子,飯野理恵,丸谷美紀,井出成美 : 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防支援ガイドの作成. 千葉看会誌, 24(1), 1-11, 2018.

[学会発表抄録]

4. Ishii I, Okubo M, Sakai I : IPE in clinical pharmacy education and influence at the bed side. 第91回日本薬理学会年会 第18回国際薬理学・臨床薬理学会議 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018), 89, 2018.
5. Narumi IDE, Mayumi ASAHINA, Zaiya TAKAHASHI, Izumi USUI, Yumiko BABA, Ikuko SAKAI :Reaction of students and instructors in clinical IPE as a trial program at Chiba University in Japan. Book of Abstracts, the 3rd Asian Congress in Nursing Education, 34, 2018.
6. Izumi USUI, Narumi IDE, Zaiya TAKAHASHI, Yumiko BABA, Ikuko SAKAI: Chages in nurse image after IPE: comparison of 3 departments in healthcare. Book of Abstracts, the 3rd Asian Congress in Nursing Education, 48, 2018.
7. 朝比奈真由美, 井出成美, 臼井いづみ, 黒河内仙奈, 酒井郁子, 伊藤彰一 : 臨床指導者への調査から得られたクリニカル I P E 実施上の課題, 第 50 回日本医学教育学会大会予稿集,医学教育 49supple,98,2018.
8. 馬場由美子, 井出成美, 臼井いづみ, 高橋在也, 朝比奈真由美, 関根祐子, 酒井郁子: 専門職連携学習自己評価得点を用いた経年蓄積型 IPE の学習効果の検討. 第 11 回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,62,2018.
9. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 高橋在也, 酒井郁子: 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修プログラムの短期的効果の検証. 第 11 回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,55,2018.
10. 朝比奈真由美, 井出成美, 臼井いづみ, 黒河内仙奈, 酒井郁子, 伊藤彰一: クリニカル I P E の臨床指導者への影響. 第 11 回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,40,2018.
11. 松平裕佳,山本武志,井出成美,渡辺美保子,池西静江,酒井郁子: 医療関係職種養成施設の専門職連携教育に関する全国調査 (第 1 報 : IPE 実装の実態と課題について) . 第 11 回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,57,2018.
12. 山本武志,松平裕佳,山本道代,安部博史,井出成美,渡辺美保子,池西静江,酒井郁子 : 医療関係職種養成施設の専門職連携教育に関する全国調査 (第 2 報 : IPE 実装の効果と障壁の認識について) . 第 11 回 日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集,58,2018.
13. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 高橋在也, 酒井郁子 : 専門職連携教育の効果 (第 1 報) : 看護師イメージの変化について, 千葉看護学会第 24 回学術集会講演集,29,2018.
14. 杉本なおみ, 酒井郁子, 藤沼康樹, 大西弘高 : 医師・看護師間意思決定プロセスを円滑にする教育プログラム開発に向けた基礎調査 : クリティカルポイント場面での会話の過程と帰結. 第 11 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 61, 2018.
15. 杉本なおみ, 酒井郁子, 藤沼康樹, 大西弘高 : 医師・看護師を対象とする連携能力教育プログラムの開発と評価. 医学教育, 49(Suppl.). 166. 2018.
16. 石川麻衣, 杉田由加里, 井出成美, 石川みどり: 後期高齢者を対象とした健康診査後の個別保健指導方法. 第 77 回日公衛会抄録集,423,2018.
17. 井出成美,石丸美奈,久保田健太郎,井出博生,関谷昇 : 住民の日常的な地域内の交流と地域活動の参加との関連. 第 77 回日公衛会抄録集,447,2018.

18. 久保田健太郎,石丸美奈,大塚真理子,井出成美,佐藤太一:住民・大学・行政のパートナーシップによる「助けて」と言い合える地域づくり. 第 77 回日公衛会抄録集,447,2018.
19. Mina Ishimaru, Narumi Ide, Hiroo Ide, Koichi Takeuchi and Noboru Sekiya: Japanese Suburban Residents' Awareness of Community Issues and Their Solution Approach: Survey of Their Commitment to Participating in Community Activities. The American Public Health Association's APHA's 2018 Annual Meeting & Expo, San Diego,2018.
20. 佐藤紀子、雨宮有子、細谷紀子、杉本知子、飯野理恵、時田礼子、石川志麻、井出成美、谷本真理子:高齢者のエンパワメントを促す介護予防従事者向け研修会の学習効果～時期式質問紙の記載内容の分析～.第 38 回看護科学学会学術集会, ,2018.
21. 雨宮有子、佐藤紀子、杉本知子、細谷紀子、飯野理恵、時田礼子、石川志麻、井出成美、谷本真理子:高齢者のエンパワメントに着目した介護予防従事者向け研修会の学習効果 - 支援指針の自己評価の分析. 第 38 回看護科学学会学術集会, ,2018.
22. 高橋在也: 生の支援における対話の意味-成人学習理論における対話・学習・社会的文脈を焦点として-. 日本エンドオブライフケア学会第 2 回学術集会抄録集, 68, 2018.
23. Takahashi Z., Masujima M., Sato N., Ishibashi M. : Challenges of community - based advance care planning in Japan. The 20th World Congress of Psycho-Oncology and Psychosocial Academy, Hong Kong, Supplement, 28-29, 2018.
24. 笠井大, 伊藤彰一, 田島寛之, 朝比奈真由美, 酒井郁子 翼浩: ロールプレイとピア評価を活用した学生主導回診が医学生に与える全人的医療技術の向上効果についての検討. 医学教育. 49(Suppl.).191. 2018.
25. 山口多恵, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 一般病棟から回復期リハ病棟へ移動した中堅看護師のアンラーニングのプロセスの仮説モデルの検証. 第 38 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 65, 2018.

〔単行書〕

26. 酒井郁子: 1 章 4 訪問看護ステーション・介護施設での看護マネジメント力の強化 看護管理者研修プログラムの開発、平成 30 年版看護白書 地域包括ケア時代の看護管理者の役割, 公益社団法人日本看護協会編, 2-9, 2018
27. 酒井郁子: 介護施設の看護実践ガイド第 2 版、編集公益社団法人日本看護協会、2018
28. 井出成美: 地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり, 宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編, 最新公衆衛生看護学総論,第 3 版(2019 年版),日本看護協会出版会,305-309,2018.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

29. 酒井郁子: 特集 身体拘束から考える 基礎教育と臨床の関係 [インタビュー]拘束という慣習を乗り越えるために. 看護教育, 59(6), 434-440, 2018.
30. 酒井郁子: 【訪問看護ステーションと地域連携】 〈第 1 部〉 これからの訪問看護ステーション 管理者に求められる能力. 難病と在宅ケア, 24(7), 27-29, 2018.
31. 酒井郁子: リハビリテーション看護 総論 リハビリテーション看護の理念と専門性. 総合リハビリテーション, 46(8), 751-757, 2018.
32. 酒井郁子: 連載意外に知られていない高齢者の事故(最終回) 高齢者の事故予防はケアの質の向上によって実現する. 看護技術, 64(14), メヂカルフレンド社, 60-63, 2018.
33. 井出成美,朝比奈真由美,伊藤彰一,関根祐子,石川雅之,臼井いづみ,馬場由美子,酒井郁子: 千葉大学クリニカル I P E—大学病院における医・薬・看の診療参加型 I P E—.保健医療福祉連携, 11(2), 123-130,2018.
34. 朝比奈真由美. 専門職連携教育 (IPE) を推進するのに必要なこと—各専門職がフラットな関係のなかで協働する能力を育む千葉大学の玄鼻 IPE. 看護展望 2018;43:9:81-87
35. 朝比奈真由美. Interprofessional Education (IPE: 多職種連携教育あるいは専門職連携教育). 医学教育白書. (日本医学教育学会監修)、篠原出版新社、81-84、2018

[シンポジウム・ワークショップ]

36. Sakai I : Globalisation of Inter-Professional Education Program: Trends and Opportunities. The 3rd Asian Congress in Nursing Education. Yogyakarta, Indonesia. Book of abstracts. 4. 2018.
37. 酒井郁子, 北川公子、大野直子、金森琢也、山川みやえ : 老年看護政策検討委員会企画 : 老年看護学のエビデンスに基づく政策提言のための課題. 日本老年看護学会第 23 回学術集会, 88, 2018.
38. Ishii I, Okubo M, Sakai I : IPE in clinical pharmacy education and influence at the bed side. 第 91 回日本薬理学会年会 第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018), 89, 2018.
39. 酒井郁子 : 「慣れで看護していませんか?病棟の看護を改善するためのいろいろな方策」「生活リズムを整えるためのケアプロトコールを活用しての実際」. 千葉県看護協会船橋地区部 研修会. 2018.
40. 酒井郁子 : 千葉大学の IPE プログラム「玄鼻 IPE」の紹介. 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム策定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース, 群馬大学医学部保健学科, 2018.
41. 酒井郁子 : 基調講演「専門職種連携教育の理論と現状」. 第 30 回 (一社) 日本看護学校協議会 学会, 2018.
42. 酒井郁子 : 現代日本とエビデンス・ベースド・プラクティス「看護における EBP」. 日本心理学会第 82 回大会抄録集, 60, 2018.
43. 酒井郁子 : 介護施設・住宅領域のケア提供について. 平成 30 年度 医療安全推進会議. 2018.
44. 酒井郁子 : 特別講演. IPE の歴史・理論・研究 多様なプロジェクトからみた日本での現状と課題. 浜松医科大学大学院. 2018.
45. 酒井郁子 : 「高齢者ケア施設で働く看護師が備えるべき能力と役割」～いてくれてよかった!と思われ自分になろう!～. 東京都看護協会 「在宅・高齢者ケア施設の看護管理者交流会」, 東京都看護協会, 2018.
46. 酒井郁子, 藤沼康樹, 杉本なおみ, 大西弘高 : 医師と看護師が乗り越えるべきコミュニケーション上のクリティカルポイント. 第 7 回 日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会, 36, 2018.
47. 酒井郁子, Gray D.Rogers : 看護国際フォーラム 2018. つながるひろがるケアリングの輪—専門職種連携教育のこれから—. 京都橘大学エクステンション講座, 2018.
48. 小田浩之, 山田紀昭, 臼井いづみ, 野田幸裕, 尾崎康彦 : 看護教育におけるシミュレーション教育. シンポジウム : 医療の質向上、安全性担保のためのシミュレーション教育, 第 13 回医療の質・安全学会誌, 273, 2018.
49. 井出成美 : 看護職に特有の思考過程と前提となる価値. ワークショップ : 医師と看護師が乗り越えるべきコミュニケーション上のクリティカルポイント, 第 7 回プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会, 2018.
50. 朝比奈 真由美. Panel Discussion 2 Introducing continuous professionalism education into undergraduate and postgraduate medical education. PD-02-2 低学年から臨床教育まで継続するプロフェッショナルリズム教育. 第 50 回日本医学教育学会大会, 2018, 東京



IPERC ロゴマークの由来

IPERC のロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の3つの学部からはじまった亥鼻 IPE のうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成されました。

文部科学省 国立大学改革強化促進補助金
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
平成30年度 事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究科専門職連携教育研究センター
編集者：酒井郁子、井出成美、白井いづみ、高橋在也、馬場由美子
発行日：平成31（2019）年3月

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
E-mail : inohana-ipe@office.chiba-u.jp

※ 本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めさせていただきますよう、お願いいたします。

